



No.11

平成6年(1994)11月1日  
編集・発行  
津田左右吉博士顕彰会  
美濃加茂市太田町3425-1  
TEL 0574-25-4141

## 市制四十周年によせて

顕彰会会長 佐 合 隆 治

今年は、津田左右吉博士が  
生誕され、一二十一年目であり  
又、美濃加茂市制四十周年と  
言う節目の年であります。

私共、津田左右吉博士顕彰  
会は、郷土の誇れる津田博士  
の学問、人物などを顕彰する  
ことにより、博士の偉業を後  
人に伝え、二十一世紀に生き  
る人々に、勇気と知恵をもつ  
て明るい豊かな郷土づくりに  
お役に立てるよう努力してお  
ります。

本年は、例年のごとく津田  
賞作文募集の事業を進めさせ  
て頂いておりますが、特に本  
年は、美濃加茂市制四十周年  
という事もあり、募集の範囲  
を昨年より広げさせて頂き、  
将来は県下一、日本一の作文、

津田賞に育て上げるべく、市  
当局のご理解も頂きながら、  
事業を展開する所存でありま  
す。

又、新規の事業といたしま  
して、市の文庫の創立という  
ことから、劇画「津田左右吉」  
(仮称)を製作できる運びと  
なり、これの完成により、広  
く一般の人々に津田博士を御  
理解いただける良いチャンス  
と考えております。完成のあ  
かつきには、会員の皆様方に  
は、是非ご一読下さいますよ  
うお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様方には  
津田左右吉博士顕彰会の日々  
の活動に、深いご理解とご指  
導をお願いいたします。

### 黄昏の人 津田左右吉の著書 鈴木瑞枝さん講演会の開催

美濃加茂市教育委員会と津  
田顕彰会では、「黄昏の人  
津田左右吉」の著書 鈴木瑞  
枝さんの講演会を、十二月四  
日津田博士の命日に開催する  
ことになりました。

今回の講演会では、津田博  
士と家族同然に付き合ってきた  
鈴木さんに、博士の人間的  
な面を語っていただきます。  
講演会の日程は次のとおりで  
す。

とき 十二月四日(日)  
午後二時  
ところ 市立図書館  
演題 「黄昏の人 津田左右吉」  
講師 鈴木瑞枝  
対象 一般  
入場 無料

また、十二月五日に下米田

小学校の児童を対象に鈴木瑞  
枝さんの講演会を行う予定で  
す。

### 黄昏の人 津田左右吉

鈴木瑞枝 著



このたび八雲出版より『黄  
昏の人 津田左右吉』が出版  
されました。鈴木さんは幼い  
ころから津田博士に孫同然に  
可愛がられ、津田博士ご夫妻  
を「おじさん・おばさん」と  
呼び、家族ぐるみのお付き合  
いをされてきました。

今回、鈴木さんは身近に接  
した立場から人間津田博士  
(「黄昏の人」)を、この著書の  
中で語っています。鈴木家  
(瑞枝氏の両親)と津田博士  
ご夫妻の親密な関係は、津田  
左右吉全集 第二十七巻『日  
信』の中に掲載されています。  
『黄昏の人 津田左右吉』は、  
津田博士の思いやりと人間性

が伝わってくる本です。

劇画

### 津田左右吉

製作予定

美濃加茂市教育委員会は、  
平成六年度に津田左右吉博士  
の劇画本を製作することにな  
りました。

これは、郷土の生んだ偉人  
『津田左右吉』の存在や業績  
を綴り、悩み苦しみながらも  
自分が信じる道を歩み、学問  
への夢を実現した生き方を知っ  
てもらうために贈る、子ども  
達へのメッセージです。

全体の構成は、現代の子ど  
もたちにも容易に受け入れら  
れる漫画を中心に、カラーグ  
ラビアなどで津田左右吉に関  
する写真や資料を掲載する予  
定です。

生まれ育った美濃加茂での  
少年時代、苦悩の青年時代、  
そして学問の道を志した研究  
生活時代と津田左右吉の生  
涯を綴ることにより、子ども  
たちに「自分で自分の道を切  
り開き、夢を実現すること」  
の素晴らしさを知ってほしい  
と願っています。

# 黄昏の人——津田左右吉——

鈴木瑞枝

## 序章 黄昏の人

津田先生——津田左右吉は、若い頃黄昏と号しておられたらしい。らしいと言うのは、私が物心のついた頃には、

（それはもう先生が六十歳近くにもなっておられたのだが）号などは使われず、従ってそういう雅号のあるなどと言うことは、知る由もなかったからだ。それを知ったのは、没年何年かたち、全集が出、先生の若い頃書かれたものを読んだからである。

しかし何故か今振り返ってみると、この黄昏という号が、先生にびったりだったと思うのである。というのは、いろんな時いろんな所で先生に接したが、今一番思い出されるお姿は、夕方細身のステッキを片手に、ゆっくりと路地を我が家の方に入って来られるお姿であり、また陽が西に沈んでゆく頃、四つ谷のお堀の土手を、（今は上智大学のグラウンドになっている。）私たちと一緒に散歩されるお姿である。いずれもバックは茜色

に染まっている。そういう西の方の空を背景に、先生の姿はシルエットになって、頭に浮かんでくるのだ。

そういう訳でこの黄昏という号は、私にとって、早稲田大学で行なわれた告別式の際、グリークラブの学生たちが歌ってくれた、津田左右吉作詞・東儀鉄笛作曲の「暮春の歌」のいかにも明治の歌と言った甘美な哀愁をもったメロディーと共に、先生を思い出させる気持ち、今でも掻き立ててくれるのである。

春やむかしの おぼろ月  
おぼろに残る おもかげに  
見はてぬ夢を 忍ぶとも  
さめしうつつを いかにも  
春やいづこ 春やいづこ

黄昏は何も春に限った気象ではないのだが、黄昏イコール「たそがれ」は、「誰そ彼（は）」と、人の様子の見分けにくい所から生まれてきた言葉だという。そうだとすると、「春やいづこ」と春を探し求める気持ちと相通ずるも

のがあり、つまるところそれは、津田先生を慕う気持ちにもつながり合って、私をより切なく、先生を慕う気持ちに駆り立ててくれるのである。

その先生がなくなられて三分の一世紀が経った。あのお葬式の前後多くの方々にお目にかかったが、その人たちももうほとんど故人になってしまわれている。先生と親しく話し合った人たちも少なくなってしまった今、そして私自身、何時の間にか還暦を通り越してしまった今、黄昏の人として先生を私なりに書きとめておこうと思うのも、あながち無意味なことではあるまいと思う。

学者としての先生の偉大さなどは、たとえ凡庸な私が、今後二、三十年の齢を許されたとしても、到底極め尽くせないであろう。それで先生のその面については余人に任せて、せめて人としての先生を幾らかでも書き表わせたらと思っている。

一九九三年、早稲田大学の蔵のからまった旧図書館内に、津田記念室が開設された。そして十一月には、津田左右吉博士生誕百二十年を記念して、名誉教授である栗田直躬先生

が、「津田先生の学問の意味」と題して、二時間半近くも素晴らしい講演をされた。聞けば栗田先生も今年九十歳になられたとか。何時も津田先生のお側にいて、細かいことにも行き届いたお世話をなさっていた印象が強かったので、津田先生のお歳の上を越されたなどとは、思いもよらないことであった。そういうことでこの小著は、「栗田先生と亡き父母に」捧げたいと思う……。

黄昏の空は見る間に

暮れゆきて

闇に消えたる人ぞ恋しき

## ◆著者紹介◆

鈴木瑞枝（すずきみづえ）

一九二七年生まれ。旧早稲田中学・第四高等学校を経て早稲田大学第一文学部卒。安田学園教諭を経て現在講師。

早稲田大学

小山総長が

来市

去る、八月四日に早稲田大学の総長小山宙丸氏が夫人をともに美濃加茂を訪問されました。早稲田大学は、美濃

加茂が生んだ偉人坪内逍遙博士と津田左右吉博士のゆかりの学園です。

総長は、この両偉人の生地を一目見ようと太田の逍遙公園や祐泉寺、下米田の津田博士の生家や下米田小学校などを見学しました。下米田小学校では、古川校長先生、尾関名誉会長が津田博士と美濃加茂とのつながりや津田文庫の由来などを説明されました。

最後

に、名勝日本ライン下りを楽しまれ美濃加茂を後にされました。



津田先生のお話を聞く会

下米田小学校

去る、十月三十一日下米田小学校の六年生を対象に講演会がもたれた。講師、津田顕彰会副会長の大沢功さんが、「津田先生の思いやり」という題で話され、その内容は画家かけ出しの曾宮一念氏がア

トリエ建設の費用で

苦慮し

ている

のを耳

にされ

た津田

先生が、

友人池

内宏先



生を通じて原稿料をそっくり曾宮氏に届けられ、これに感激した同氏は画家最初の作品を津田先生に贈り、二人のご親交は津田先生の亡くなられる迄続いたこと、栗田直躬先生への六百通にも及ぶ手紙、「日信」と題して鈴木夫妻に出された二年余に及ぶ手紙など多くの思いやりをのべられた。子どもたちは熱心に耳をかたむけていた。

第十回

津田左右吉賞

入賞者決まる

第十回津田左右吉賞「少年の作文」募集の入賞者が決定し、十月二十九日に美濃加茂商工会館で表彰式と発表会が開催されました。

今年度は、津田賞が十周年



を迎え、募集地域を美濃加茂市・坂祝町・富加町から可茂地域に拡大しました。このため、市内外から多数の応募がありました。(小学校・七七九点、中学校・二〇四点)今回の入賞者は、左記のとおりです。



## 入賞者名簿

### ○小学校五・六年生の部

#### 最優秀賞

富加小 五年 曾我 英子  
本当にいい町について

#### 優秀賞

蜂屋小 六年 尾石 光美  
未来の美濃加茂市について  
山之上小六年 松田 有未  
梨のふくろかけから  
山手小 五年 菊池 正章

自分の考えを主張しやりとげ

れる人に

御嵩小 六年 伊佐治まり  
未来に向けての私のねがい

#### 佳作

蜂屋小 五年 交告 由美  
私はこんな人になりたい

伊深小 六年 小林 美夢

伊深の自然は「心の薬」

下米田小六年 長谷川芳孝

ぼくの友達

山手小 六年 座馬 敬典  
ぼくはこんな人になりたい

広見小 五年 水野 光芳

私の将来

坂祝小 六年 三宅 梨加

私はこんな人になりたい

富加小 六年 渡辺知沙子

私の大切な友達

富加小 五年 村山 絵巳

福祉の町 富加町

御嵩小 六年 田中理恵子

学び、高め合える友とともに

### ○中学生の部

#### 最優秀賞

東 中 二年 高木 恵子  
今的美濃加茂市を見つめて

#### 優秀賞

広陵中 三年 斉藤 鈴香  
友達

上之郷中三年 大鋳 麗香

私の将来

東 中 二年 後藤 明美

津田左右吉博士に学ぶ

#### 佳作

西 中 三年 水野 史子

友達とは！

双葉中 三年 亀井 里実

私の将来

広陵中 三年 永島 理恵

真の友情、真の友達

広陵中 三年 福永亜矢子

大事な宝物

坂祝中 三年 石原 章子

進路について考える

坂祝中 一年 小木曾照代

かなえなければいけない夢

## 津田博士の

## レリーフ完成



鎮に一新されました。

今年度から津田左右吉賞の記念品が津田博士のレリーフ入りの文

大きな直径約十センチ厚さ約二センチでずしりと手応えのあるものです。これは日展に何度も入選されたことのある彫刻家斎藤勝弘氏の作品です。斎藤氏は下米田小学校の津田博士の胸像を造られた方です。

博士の後輩に対する思いやりが表情に出た傑作です。